

幻のラーメンを求めて…Gパーティ
会越国境・

五十嵐川支流ヒグラ沢～叶津川本流下降

恒例トマの春の会山行。今回は会越国境を境に会山行が繰り広げられる。そのなかで唯一、越後の五十嵐川支流ヒグラ沢を遡行し、会津の叶津川へ下降するという、ロマンあふれる国境越えルートに名乗りを挙げたのは、佐藤(耕)、五十嵐、吉澤、松本の4名。そのなかでひとり、自分の目的を達成するために、このルートを志願する男がいた。それは…↓

【日程】

2016年6月4～5日

【メンバー】L 吉澤、佐藤(耕)、五十嵐、松本

【グレード】3級下

【地形図】

光明山、守門岳

【記】松本

山菜よりラーメン紀行～その1 わざわざ前乗り(ジロリアン五十嵐記)

今年(2016年)1月、新潟は菅名岳山行の帰り道。お昼過ぎだったと思う。もうすぐ三条燕ICの入り口というところで、車を運転していた佐貫さんが言った。「なんかこのあたりのラーメンがどうか言ってたけど、そんなに遠くなければ行ってもいいよ」。僕はたしかに行きの車内でそんな話をしていたのだけれど、店名もわからず、近いのかもわからず、スマホで検索したものの、結局、目当ての店にたどり着くことができなかった。同じころ、別の車に乗っていた佐藤(耕)さんも同じような思いでいた。目当ての店に行けずに高速のサービスエリアで燕ラーメンを食しながら、「これではない。俺が求めているのは…」とつぶやいていたという。

そんな二人が燕三条駅集合という山行で同じパーティとなり、なぜそのままタクシーに乗り込んでダムをめざせるというのか。食べたいという思いを果たさぬまま、ブナ林に抱かれて幸せと言えるのか。背油に未練を残してムササビの滝と本気で対峙できるのか。ヒグラ沢入渓前にしておきたいこと。それは燕ラーメンの本拠地・杭州飯店訪問である(家で落ち着いて検索したらすぐにわかった)。かくしてメンバーを募ったところ松本さんの参加表明を得て、吉澤くんには申し訳ないが、4人パーティ中3人での前日入りが決まった。連絡事項はいたってシンプル。

「杭州飯店 16時50分集合」である。

さて、燕ラーメンとはどんなものだろう。ウィキペディアによれば、背油濃醤油煮干出汁の極太ラーメンの総称であり、工業地帯である県央地域の工場労働者たちの要望を汲んだ新潟ご当地ラーメンである。その元祖は燕市穀町の「福来亭」であるが、2007年7月に閉店。その親族が経営する「杭州飯店」が現在、その流れを汲んだラーメンを提供しており、「本拠地」といわれている。

さて、このラーメンの特徴は3つ。

- 1.工場労働者向けの塩辛いスープ
- 2.時間が経っても伸びにくい極太麺
- 3.寒い地域でも冷めにくい背脂コーティング

杭州飯店集合の日、最寄り駅であるJR 弥彦線西燕駅まで鈍行で6時間ほどかかるので、僕は9時過ぎに家を出た。のんびり本でも読みながら、ビールでも飲みながら行くはずが、会社から電話がばんばんかかってくる。車内では出られないから乗り換えのわずかな時間でかけ直し、また

電車に乗ると着信と留守電がたまり、乗り換え駅でそれにまた返事をして…。西燕駅に16時過ぎに到着し、田園のなかに工場が点在する途を仕事の電話をしながら歩く。杭州飯店に着くころにやっとすべてが解決し、ぶつさ佐藤(耕)さんに文句を言うと、「あるある」と笑って同意してくれて、なんだかほっとしてしまう。店の前には大行列を覚悟していたのに僕らしかいなくて、斜め前の町工場では作業しているのにあたりは静かで、空は青くて雲がまだらに空全体の三割くらいに散らばっていて、ときおり通り過ぎる車は軽自動車ばかりで、そういえば佐藤(耕)さんは車内でイヤホンして笑っていたけどきくとあれは落語を聞いていたせいで、開店10分前なのに松本さんが現れないからどうしたんだろう?と置いていたらタクシーが横づけされて松本さんが乗っていて「温泉寄ってきた～」と優雅で、そうこうしているうちにだんだん人が集まってきて、店の人から「どうぞ」と言われて一番乗りで入った。ラーメンは、見た目はぎとぎとの油っこいラーメン。いわゆる二郎系。でも食べてみると魚介系スープだからあっさりしていて、背油も主張せずさっぱり。いちばんの特徴は麺。あまり食べたことのない歯ごたえ。もちもちしていて、柔らかい。やわいののに弾力がある。小麦のいい香り。アゴが疲れないう極太麺。佐藤(耕)さんが「これは来てよかった!」と10回言ってスープを飲み干した。この言葉に尽きる。来てよかった!



ここからは、まじめに会山行!

6月4日(土):晴れ

燕三条駅から予約したタクシーで大谷ダムに向かうが、タクシーの運転手さんは大谷ダムの先には来たことがないようで、「この先、道あるんですか? 本当に?」と背中から問いかけられているようで、運転からも不安の様子がありありとわかる。やがて木の根橋のもとには、役場で確認したとおり林道ゲートがあり、ここでタクシーを降りると、運転手さんも安堵の笑顔で去っていった。準備をしていると、工事車両が次々とゲートの先に消えていく。五十嵐川沿いの林道を歩いていると、私たちを抜き去る車から視線を感じる。沢装備に身を固めているのがめずらしいのだろうか。

ようやく岩菅橋を過ぎるとそろそろ沢下降地点、傾斜の緩そうなところから川床へ下りる。下田の沢へようこそ、切り立った側壁が歓迎してくれている。ヒグラ沢の入り口は「チョックストーン



の滝」で大きな岩が目印、わかりやすい。なんとなくゴーロが多い沢だなあ。1時間ほど遡ると、遠目にでかい滝が見えた。「ムササビの滝」であることはすぐにわかり、一同「おお～」と感嘆の声をもらす。ムササビの滝とごたいめーん！ 少し下がった右側から巻けるだろうが、滝の右側からも登れそうだったので、ザックからロープを出し、吉澤さんと松本が準備をしていると、後ろから「巻こうよ」と五十嵐くんが言った。佐藤（耕）さんも横でうなずいている。ということで、ムササビの滝を巻く。登れると思うけれど…。その先の巨岩帯ではショルダーで乗り越したりしてわりと大変である。さて、お次はねじれた「曲り滝」の登場。五十嵐が取り付き突破、おいでおいでと手招きする。松本も続くが水流に押されて、必死の形相でなんとか這い上がる。吉澤さんと佐藤（耕）さんは余裕で続く。たぶん。

その先のゴルジュへ。ひとりチョクストーンの滝を登る吉澤劇場



お次は、大きな釜の先に短い狭いゴルジュと奥にチョクストーンの滝が懸っている。吉澤くんが大きな釜の右側をへつり出した。「先を見て、行けそうなら呼んでね」と声をかけるが、しかし。うまくへつっては行ったが彼は一度もこちらを振り返ることはなく、ひとりゴルジュの中へと消えていった。あーあ、行っちゃったよ。自分の世界に入っちゃったね。取り残されたおじさんとお婆さん3人はボーっと吉澤くんの行く末を見守るしかないが、しばらくしても吉澤くんの姿が見えないので、どうしちゃったんだろうねえとおじ&お婆3人は心配になる。やがて、黒い物体がもぞもぞ動いているのが見えた、チョクストーンの滝を登る吉澤くんの姿だった。無事に登り切ったあとに初めて彼はこっちを向いて笑ってくれた。よかった、よかったととうなずきながら拍手を送るおじさんお婆さん。もしかして、吉澤くんを置き去りにしてラーメンを食べに行ったことを恨んでいたのかな～。さて、残された者はどうするか、巻くのである。ずるずる滑る斜面を登り、右にトラバースをするが、まだチョクストーンの滝の落ち口で下りられない。先には灌木がないので、もう少し高度を上げるが今度は上がり過ぎて、また下がる。中間の岩になんとか薄い踏み跡のようなバンドを伝って下降し、ようやく吉澤さんと合流できた。この巻きは意外と悪かった。

もう滝は終わりかなあ～と思っていたら、まだありました。地形図にある滝マークのところ。遠

目には大きな滝が連続して見える。記録では大きく巻いているようだが、登ってみる？ ロープをセットし、吉澤さんと松本が準備を始めていると、後ろから「巻こうよ」と五十嵐くんが言った。佐藤（耕）さんも横で強くうなずいている。あれ、これはどこかで…ムササビの滝のときと同じ光景である。うーん、この先の滝も見てみたかったなあ。巻きは右のルンゼに入るが、ずるずる滑り、急だし、気が抜けない。途中から草つきの斜面をトラバースして尾根を乗り越し、さらにゆるい斜面をぐるりと巻いて沢へ下っていくと、あきらかに周囲の景色が一変した。佐藤（耕）さんが「これはすごいなあ」と言った。この大滝を境にして、側壁の立った険しい溪相の下田の沢からブナ森が広がるおだやかな溪相の会津の沢へ、県境は越していないが私たちは沢の境目を越えたのである。

ブナの樹間からこぼれる日差しを受けて休憩をしていると、「もうここでいいかな〜」とまどろむ五十嵐くんからお得意の発言が出た。さっきは「今日は下降して、飯田さんのパーティと合流かなあ」とか言っていたくせにね。一帯はどこでも泊まれそうだけれど、ここぞ！という場所がないまま先に進む。おじさんとお婆さんは泊まりたくてしょうがないから、もうここでいいんじゃない？

などと適当にごまかして、どうにか荷物を下ろそうとする。それを許さないのが吉澤リーダーで、ちょっと見てきますと言ったリーダーのつけてきた幕場は、フラットな床で薪も豊富で文句のつけどころがない100点満点の極上物件、大きなブナの倒木のベンチが備え付けられていて、泊まった形跡があった。今回の山行のお題は「沢で食べたことのないメニュー」という内容になった。夜のとぼりが落ちるころ、宴会はメインディッシュの「沢二郎」で締めくくられた。



リーダーのつけたナイスな幕場！ ありがとう

6月5日（日）：晴れ

今日は尾根越えをして、会津の叶津川へ下降。集合時間に遅れないように3時起床、5時出発、私たち、まじめだなあ。幕場から尾根の鞍部をめざして行く。いくつか滝を登ったり、巻いたりしていく。遡っている途中、「お腹が痛い」と言った吉澤くんの顔は土気色だった。私も朝からトイレが近かったが、身に覚えはある。沢二郎の油だろう。力むと出てきそうなので、ふんばりが利かない。佐藤（耕）さんから胃腸薬をもらってがんばる吉澤リーダー。それでも鞍部に乗り、下降していくと広い河原に出た。このへんがフキ平なのかな。おだやかな流れとタニウツギのピンク色が美しく、なんだかあの世みたい(行ったことはないけれど)。すると、出発準備をしていた飯田パーティとばったり。



いっしょに下っていくと、今度は赤崩から来た萩原パーティとばったり。みんなで仲よく下降して、長い林道をえんえんと歩き、集合場所に13時には到着してしまった。

【グレード】3級

【行程】

6/4 (土) 木の根沢ゲート (6:50) ~ヒグラ沢入渓 (8:15) ~ムササビの滝 (9:30) ~曲り滝 (10:20) ~大高巻き後700m (12:30) ~770mC1 (13:40)

6/5 (日) C1 (5:00) ~1000m付近尾根鞍部乗越 (6:30) ~叶津川合流 (7:10) ~国道289号 (8:50) ~集合場所 (12:30 ごろ)

【地形図】光明山、守門岳

